

11月号 教科書活用法

令和7年度、すべての会場に算数の教科書が配備されました。スタッフマニュアルには以下の3つの活用法が示されています。1.宿題の類題として使用する 2.さかのぼり学習に活用する 3.スタッフの勉強のために利用する。今回はそれぞれの活用法についてさらに掘り下げて考えてみたいと思います。

1.宿題の類題として活用する。

持ってきた学校の宿題が終わって、他にやることがないと言うときに教科書が役に立ちます。各ページの「練習」、章末の「学習のしあげ」、巻末の「〇年のふくしゅう」「ほじゅうのもんだい」など教科書にはたくさん類題が掲載されています。その日の学習に関連するものを解いてもらうには十分な量がありますよね。答えがないから（不安）との声もたまに耳にしますが、各ページについているQRコードにアクセスすると解答を確認することができるようになります。さらにたくさんの問題を解かせたい場合は、皆さんの腕の見せ所です。レポート用紙などに類題を書いてあげたらいかがでしょう。印刷されたプリントよりもスタッフの気持ちが伝わりますし、そのごとに必要な問題をピンポイントで扱うことができます。

2.さかのぼり学習に活用する

時間に余裕があれば、さかのぼり学習がおすすめです。「苦手な分野はある？」などと聞きながら、1章から順に確認していくと曖昧なままになっている分野や、何となく流している分野が見つかります。そこをもう一度説明して、復習してもらいましょう。基礎学力をつけるためには、反復練習が有効ですし、問題集やプリントなど、あれこれ手をつけるよりも、教科書の内容をきっちりと扱ったほうが学習効果が高いと言われています。逆に習熟度の高い子どもであれば、一緒に学校の予習をしたらいかがでしょう。教科書を開いて、たぶん今度こういう内容を教わるから、ちょっと見てみようかと、子どもの好奇心や優越感を刺激するのもひとつ的方法です。

3.スタッフの勉強のために利用する

速さの問題や、割合の問題をどう教えるべきか、戸惑ったことはありませんか。そんな時は教科書が役に立ちます。私たちが子どものころに教わったやり方と変わっている部分があるかもしれません。一度教科書で確認しておけば、学校の教え方にあわせることができますね。特に中学理科は改訂を重ねているので注意しましょう。例えば、中2で学習する気圧の単位は、1992年より、ミリバールから、hPa（ヘクトパスカル）に変更されています。担当される際には、子どもの教科書を見せてもらって確認しておきたいですね。

ワークブックやプリントを多用すると、子どもは教科書の流れから切り離された「断片的な知識」としてしか理解できなくなる場合があります。教科書は単に知識を並べているのではなく、「どの学習がどこにつながるのか」という体系的な学習順序が精密に組まれています。本学習会では、教科書や教科書に準拠したワークブックに取り組むことを重視し、その場限りではない「つながった学び」として理解定着してもらえる支援を目指します。